





攝州西成郡長柄村雲松山窟滿寺鐘之來由

今當山の鐘樓に懸る古鐘は唐土小燕馮跋純太平十年小一東晋の十  
 代安帝乃義熙十年小鑄造す久の物なり往昔家日本は流る  
 長柄厚東郡宇部に松江小普濟禪寺ありて是かち永初五年小  
 彫刻なり銘云く曰く長門川厚東郡宇部郷松江小普濟禪寺

聞鐘聲慎愷輕智惠長善提生離地獄出火坑願成佛度衆生皇風永扇帝道遐  
 昌佛日增輝法輪常轉天下太平四海靜謐專祈諸大檀那信力彌堅善根增長二世  
 願望一切圓成次巽山門鎮靜海衆咸安儲行有慶進道無魔般若智以現前菩提心  
 而不退四恩總報三有漏資法界有情同圓種智永和五年己未仲呂日

然るに普濟禪寺退轉の後世小なる人々も元文に長柄村の鐘は毛利康  
 比領地提防經營乃打ち土中より掘出せし故延享事申に由山に納めんと  
 云ふなり按小燕馮太平本朝全廿代允恭天皇七年戊午の歲にして寛政  
 庚申に之を刻して千三百八十三年乙未迄も其の款識ハ消滅せりといふ  
 太平云々の文字をたと見ゆし或ハ天平多クハ人々云々又利治の永和五年すハ  
 今茲庚申す四百廿二年にちかきも諸刹に古鐘多しといふも蓋鐘調と傳る  
 る此甚稀なり當山の古鐘ハ律管成吹かしてこそ修むるに生善其鐘調ふる日  
 かりやれ今海内小そ乃律と傳るものハ揚州刀田山窟林のくや高山のありか  
 なるし世人著く志願いなきも徒然草に所謂黃鐘調ハ印夜祇園精舎寺常  
 院のこ此奉ありと伝ふる此鐘も極園精舎のくや農者といふし久しく一  
 度志の鐘乃ち成り多き事ハ三惡趣の苦患と道化各上善提成はるる事なり  
 して其由を記し高好常々人々一

龍頭及右字破損  
 左手金鐘高二尺四  
 寸二分圓徑一尺九  
 寸五分厚一寸八分



此有銘文

款識 真模

十六年十月二日 寺村元  
 主川金鐘入三百斤 長二尺四寸